

会報

日本漫画家協会



国内略称 漫画家協会
国外呼称 JAPAN CARTOONISTS ASSOCIATION
国外略称 J. C. A.

1968. 2. 15

No.15

100年展(東京)報告号

役員合同会議報告

漫画100年(日本漫画家協会第1回展)の経過報告および地方統開に関する協議を中心議題とする協会理事会は、1月22日午後1時半から千代田区永田町1の8の1(三宅坂上)社会文化会館第1会議室で開かれ、在京理事中所用不参の大野・加藤・塩田・長・富田・水野6氏を除く全員すなわち17氏が出席し、ほかに監事、評議員および100年展実行委員中から14氏が参加し、役員合同会議の形式で議事を進めた。要項つきの通り。

(1) 漫画100年展について

(近藤日出造理事長あいさつ)=日本漫画史上空前の規模で開かれたわれわれの第1回展が、案外うまくいったと評判されているのはご同慶の至りだ。質的にはまだまだ色々な問題があるが、量的にとにかくこれだけのものがそろい、少なくとも客の入り方でも予想をはるかに上回る混雑ぶりが連日続いたという点では、成功という見方が成り立つと思う。心を痛めたのは、協会員各位が全くの手弁当で雑用をいとわず献身してくださったことで、ことに手塚・やなせ両君の超人的なお骨折りには打たれた。両君を含め、皆さんの縁の下の力持ちに敬意と謝意を表する。地方からも多勢見にこられ、率直な注意も聞かせてくれたが、大阪そのほか地方での統催にはこれらの意見が十分活かされるよう期待している。

(手塚治虫企画部会長報告)=会場スペースから割り出した基準入場者数は1日5千ないし8千人とあらかじめ聞かされていて、フタを開けてみると1日平均入場者数1万1千人を越え、全会期通算15万人を越える盛況で、しかも入場者の滞在時間が長く、中にはノート片手に午前・午後ブツ通した少年や、わざわざ2日間通った青年など、驚くべき熱心家が散見されたのは、今の社会への漫画の浸透度を物語る新現象として注目される。西武側でも稀な混雑ぶりだと感心していた。

(やなせ・たかしチーフ・プロデューサー報告)=品位を保ちながら面白さを出そうとする点に苦心があった。しかも選抜でなく割り当て方式なので、気を使った。コドモ漫画部門では、まだ団体的協力に慣れていない面が目立ったが、明治100年部門はわりとスムースに受け入れられた。その全ては実行委員諸氏の骨身惜しまぬ肉体的重労働に支えられてきたもので、それに対して言葉でお礼をいうだけなの

は済まないなあと思っている。

(宮下森特設事務局代表および佐川美代太郎会計幹事報告)=似顔300円、しかもゼロックス即席コピー3枚つきという掲示の前で、貫禄十分な大家たちが、別にいやな顔もせずに何十枚も勤労奉仕を続けてくださる姿には頭が下がった。記念ハンカチのデザインも、色紙サイン会も、やはり純粋な寄付行為精神で実現されたものである。おかげで特設事務局会計は東京会場に関する限り一応黒字の中間報告が別表のようにまとまり、協会本体会計の会報特別号発行費臨時支出などから生ずる赤字を埋めるのに役立つ見込みである。しかし実行委員側としても、これから第1回展のしめくくり作業として、作品全部をカラーフィルムに複写して永久保存用に一括収蔵し、明治200年展をわれわれの後継者がたやすく開催できるばかりでなく、海外の漫画展から出品招請を受けた場合、即座に飛行便で貸し出しに応じることのできる態勢をもこの際整えておきたい。赤字に転じない限度でこれら諸企画を進めることにご努力ねがいたい。

(西川辰美常務理事発言)=ご報告を厳密に表現すれば、実質は大赤字なのがお互いの奉仕協力によって黒字の姿に見えるだけのことなのだが、協会が生まれてまだ足掛け5年目にのん、よくもここまで協力が結実したものと、ご同慶の感を深くする。

(井崎一夫会報編集長報告)=100年展出品は10月末〆切り厳守の方針だったが、その10日前に谷内六郎氏が一番乗りに届けてくださったほかは、おおむね〆切り以後となり、目録原稿を印刷所へまわす予定日が12月1日だったのを3週間も延ばさざるを得なかった。それでも出品承諾者のうち数十名を登載済れとせねば、年内発行は不可能となったので、目をつぶって拙速主義の仮目録を作り、とにかく大晦日に全会員へ届くようにした。従って後日へのこす記録として改訂版を作る必要があるので、その後1月2日開会の朝持参された出品まで網羅した完全記録をまとめ、号外さし替え版として追送することとした。第2回展ではこんな苦労を避ける手段をあらかじめ講ぜられるよう望む。

(小島功著作権部会長報告)=100年展作品のうちから数枚を選んでレッテル風の小型カードに印刷し特殊目的に利用させてもらえないかという照会に接したが、その版権料は個別折衝の煩を避け協会へ一括寄付の形式で処理してほしいと希望してきているので、協会機関においては、この点につき特に異議が出てこない限り右申し入れの線に沿つて

具体的の折衝を進める方針でいる。

(2) 人事 一刀研二氏を名誉会員に推薦する件=事務局にて手紙による右提案を討議したところ異議の発言なく挙手多数で拍手可決。(来る4月27日の年次総会へ報告、了承を求めた上で確定の運びとなるはず。)

(3) 著作権表示証紙配布の件

(小島功著作権部会長説明)=別掲記事参照。

(4) アジア漫画家会議の件(岡部冬彦海外部会担当理事報告)=フィリピン漫画家協会から漫画集団氣付杉浦幸雄氏あて来信あり、アジア諸国の漫画家(イラストレーターを含む)を一丸とする連盟を組織し、その初会合を東京で開く企てに協力を得られまいかと照会してきたので、日本漫画家協会の役員会にはかって研究してもらうこととするむね取りあえず協会事務局長から返信してあるが、フィリピン1国だけでなく他のアジア諸国がどれだけ足並みをそろえる可能性があるかを確かめることが前提的に必要と思われるし、また先方がどの程度まで自主的であるか、スポンサー依存をどう考えているなどについてもくわしく照会してから立案することが望ましいので、協会の一つの宿題として検討を続けたい。なお協会第1回展示ポスターなどの資料は友好精神の表明の意味で送ってあり、先方からは機会あり次第個人または団体で訪日したいからよろしくと申し入れてきている。

(5) 定時総会 4月27日(土曜)招集の件

定款に従って毎年4月下旬に開かれる年次総会は今年は4月27日午後1時半から5時まで例年おなじみの千代田区平河町2の6都市センター講堂で行われることに決定した。会場確保の心要上日取りの早期決定を見たのだが、会員各自あての招集状は3月末ごろ往復ハガキで発せられる予定。もし上程希望の議題があれば右ハガキの返信欄に出欠通知に添えて記載してもらうことになった。

散会午後5時45分。

NEWS

第13回小学館漫画賞 石森章太郎君に決定した。祝賀会は3月7日如水会館で行なわれた。

大阪展大盛況 東京展にひきつづき2月1日から大阪阪神デパートで開催された「100年展」は、予想通り大人気、東京から近藤理事長、やなせ、手塚実行委員もかけつけた旨、関西支部長木村きよし氏から連絡があった。詳報は次号で……。

「漫画」誌復刊 戦前唯一の漫画専門誌であった「漫画」誌が、このほど復刊された。月刊。発行所は漫画社(神田)東京デザインカレッジ第4期生募集 わが国最初の漫画学校、東京デザインカレッジ(西新橋 TEL 433-4281)では目下43年度4期生募集中。なお昨秋第一回卒業生の作品集『いっき』を発行した。

〈事務局記録〉

1967・10・14 会報第12号(漫画100年展計画概要)発送。

10・23 会員S氏の画集がアメリカで複製出版されたが、作者氏名を明示せず、その代わりにエイジェントのクレジット・ラインを入れただけで発行し、これを「慣行」と称してS氏の默認を求めていたのだが、どうしたらよいかという照会を受けた。調査の結果右を『強い抗議に値する異例』と断定して回答。

10・26 S氏の申し入れに対しエイジェントから画集を訂正して作者氏名を追加明示するむね釈明あり円満解決したとの報告を受ける。

10・28 美術著作権連合から著作権確認用シール(別項参照)の割り当て配布分を受領。

10・30 100年展飾りもの用の会員自画像第一次収集分(403名分)の複写整理を完了し実行委員会へ届ける。

10・31 實行小委員会で西武および読売の担当者と細目打ち合わせ会。

11・20 池袋駅前に漫画100年展事務専管の特設事務局を臨時開設。

11・29 フィリピン漫画家協会(イサク・トレントノ会長)から杉浦幸雄氏あての手紙で、アジア漫画家会議を東京で開きアジア漫画家連盟結成の機運を作りたいむね提唱してきたので、杉浦氏代理として取りあえず事務局から「お手紙拝見、協会の人々へ取り次ぐ」むね返信。

11・30 「会費納入状況お知らせ」の封書を完納者へも未納者へもそれぞれ明細記入の上発送。

12・5 100年展実行小委員会と打ち合わせ会。

12・23 100年展出品承諾者の作品未着がまだ数十件あるが、印刷手配の都合上やむなく到着分のみで仮目録を作ることに決定送稿。

12・27 100年展PR用ポスター大小2種(水野理事デザイン)刷り上がり、掲示手配に協力。地方支部へも急送。

12・29 会報号外「出品仮目録」刷り上がり全会員へ急送。

12・31 11月末全会員あて郵送した「会費納入状況のお知らせ」による払い込み要請に応じての送金急増し、受領額20万円を突破。

12・31 特設事務局と協力して西武会場飾りつけの最終点検。新春2日からの開催準備完了。

1968・1・4 協会あてに頂いた賀状全部に対し答札の賀状を発送。

1・10 理事会招集状発送(監事、評議員および100年展実行委代表をも招き役員合同会議とする)

1・16 西武100年展最終日につき現場で実行委の中間報告会。全作品のカラーフィルム撮影永久保存手配および関西その他での続催につき打ち合わせ。

1・22 役員合同会議(別掲)

1・31 会報号外(100年展出品総目録、改訂版)を全会員へ発送。



(モニュメント・横山隆一作)

1月22日合同役員会席上、理事長以下、理事、監事、評議員および展覧会実行委員ら31氏の漫画100年東京展を顧みての感想を、誌上録音してみた。 (会報部)

会期が正月、しかも晴天つづきということもあって、じつによく入ったね。

出品点数360点(別表参照)プラス、アニメーション原画、原画展、資料展、外国漫画など……、史上最大の漫画展といえる。

1日平均入場者1万1千人(西武調べ)2週間で約15万人、これは昭和40年以来の西武デパート催し物入場者数ベスト・3に入るそうだ。

1位が英國皇室展、つぎが太平洋戦争名画展、ついで漫画展という順序らしいが……。

入場無料だから、裏口のほうからもドンドン客が入っていた。こういうのは「西武調べ」にはならないんだから、実数はもっと上廻る。

入場者がなかなか散らないのもこんどの展覧会の特徴だな。一日中行ったりきたりしているファンも目立った。

似顔、サイン、漫画家ルーム、小劇場など楽しい仕掛けがいっぱい、漫画ファンなら去りがたいムードだったよ。

ボクは展覧会ゴロ、個展マニアなどといわれているのだが、あれだけ入ったのを見たら、もう死んでもいい、と思ったね、ほんと……(笑)。

ボクは、やはり近藤理事長に感謝したい。

課題割りつけだけでも大事業だったね。近藤、西川、小島、宮下とバトンタッチされたようだが……。

手塚総指揮、やなせプロデューサー、宮下事務長にも、ご苦労さま、といいたい。

手塚君など、会期中、一日も休んじやしないのじゃないか。正月とはいえ、いつ自分の仕事するのだろうかと、こっちが心配になったくらい……。

誰、彼というより、各担当者が手弁当でじつによくがんばった、ということにつきる。

会計の佐川君、似顔担当の針君、ハンカチ即売の上田さん、作品担当の伊達君、おのざわ君、それから、臨時事務局の虫プロの窪寺さん……。

地区別出品数

(目録改訂版による)

北海道	3	埼玉	13	大阪	14
盛岡	1	東京	211	京都	4
宮城	2	横浜	13	兵庫	6
福島	4	鎌倉	8	和歌山	1
新潟	2	神奈川	14	広島	2
栃木	3	千葉	9	四国	2
茨城	4	静岡	2	福岡	11
富山	1	名古屋	13	九州	9
長野	1	愛知	6		

[計] 359点(立体作品をも含む)

彼女には協会から記念品を贈ったよ。今後この種の大事業には協会で殊勲、敢斗、技能賞を設定すべきだな。

資料展の須山さんが殊勲賞なら、巨船の柳原君が技能賞といったところか……。

読売の藤田氏(企画部展覧会担当チーフ)がこんな感想のべていた。

『〆切ギリギリになっても、作品がこない。日ごろ漫画家には馴れているつもりだったボクも、さすがに、これは大変、どうなっちゃうんだろうと頭かかえた。ところが、ギリギリのギリ、前日になって、ワーッと、作品が集まってきた。どれもが力作なんだな。さすが諸先生、追い込みの名人ばかりと感じいった』。

おかげで最大の被害者は会報部だったかもしれない。伊達君が目録原稿をかかえて飛んできたのが暮れの26日。『このほかに、入るか入らんかわからん作品が數十点ある、どうしよう?』というんだ。だいいち、こう押しせまつちや、街の印刷屋は、どこも引き受け手はありやしない。結局、読売さんに泣きついて長田印刷にヒトハダぬいでも

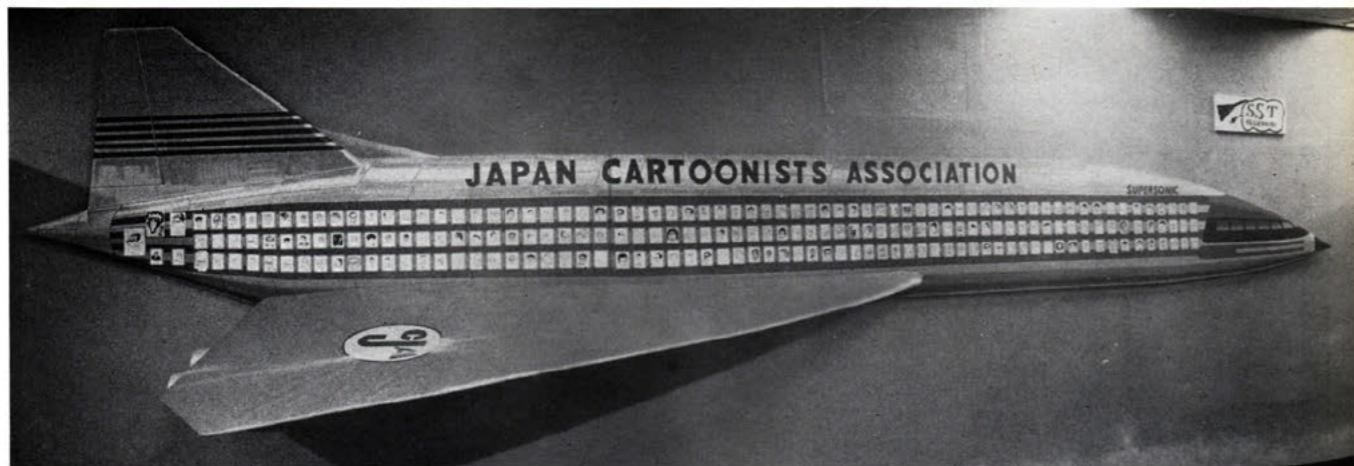


会場は大いに盛況、一日もあつたりき

らったわけだが……。

その発送がまたたいへん。あれは30日だったな、ご用おさめで静まりかえった銀座の事務局で、萩原局長と、平野部員が、ネジリ鉢巻で発送に大奮斗。年内に、会員の手もとへというひたむきな願いで……。

作品搬入第1号は谷内六郎君だときいたが、最終搬入者

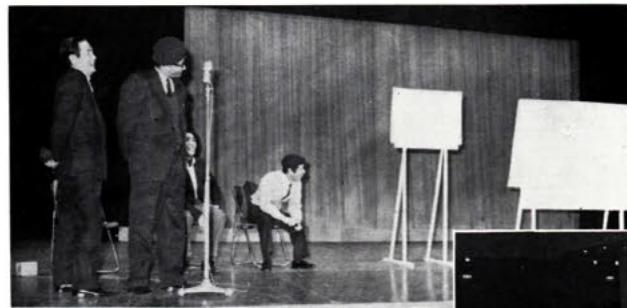


超音速旅客機と宇宙ステーションには全会員の似顔がいっぱい……。

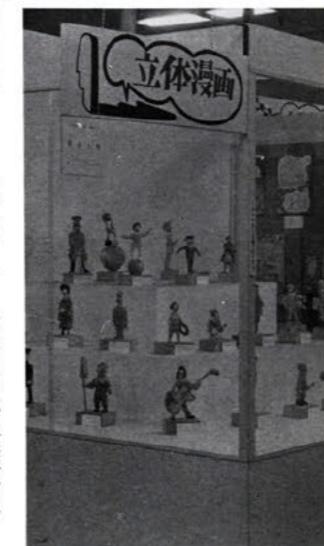
大盛況！ 東京展

PHOTO 提供・手塚北風氏

- ・東京スタジオ
- ・読売新聞社

ファウンテンホールでの
特設漫画学校

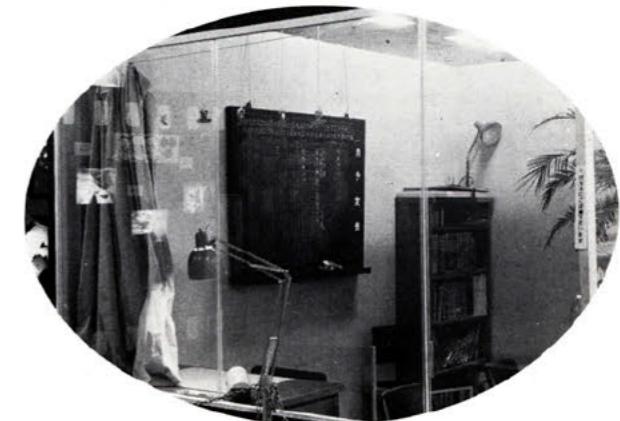
サインコーナー 上田とし子さん、小島功さん

サインコーナー 手塚治虫さん、水森亞士さん
など大奮戦……。

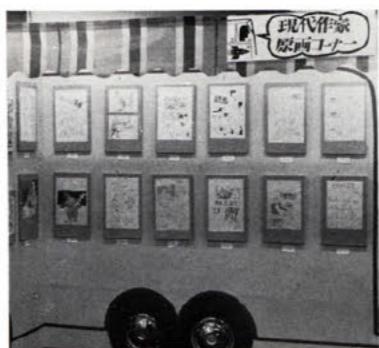
マネキン使用のアニメーション・スタンド



大力作 豪華巨船(柳原良平作)



漫画家のモデル・ルーム

似顔コーナー（左から）やなせたかし
さん、近藤日出造さん、茨茂平さん

現代作家原画コーナー

はいったい誰だい？ 歴史にも残ることだし、この際、名前を記録しておく必要がある。(笑)

＝今後のこともあるから、それはいえないがね……(笑) いよいよ飾りつけの段階で、それを横目で見ながら、色をぬっておったサムライを、ボクは知っている……。

＝いや、もっとリッパなご仁がいたよ。開会当日、入場者と共に搬入してきた先生、セリフがよかったね『きょうは書初めの日、ゲンがよろしい……』(笑)。

＝作品展示がコマあっていて、見にくく、疲れた、という声をきいたな。

＝ボクも耳にした。あまりにも日本の、都会的すぎる展示だというのだな。しかし、ボクは、全国展という意味で、まず1人でも多くの会員の作品をならべる、というのが第1回展の意義じゃないかと思う。欲をいえばキリがないが、その点でますます成功だったとおもう。

＝量の問題はともかく、質的にはどうだった？

＝仲間ボメするわけじゃないが、力作だったのじやないか。たしかに日本漫画界の水準はあがっている。とても、うれしかったな。

＝異議なしだ。幕をひかえ、もっとヤツケ仕事が多いかと思っていたが……。

＝見なおしたね。ダイナミックでカラフルで、漫画展もまんざらじゃない



(人気をよんだ似顔コニー)
列をなす客で休むヒマもない

と思った。実感だよ……。

＝実行委員会では、全作品をカラースライドに撮影した。原画は最終的には大宮の漫画会館へ永久収蔵されるのだがスライドとしても残るわけだ。今後、外国からの要請があったとしても、簡単にスライドが空から飛んで行くということになる……。

＝いい話ばかりだが、このへんで苦言もちよっと……。いいにくいか、児童部門の評議は、あまりよくなかったようだね。あれは、過去、未来ともコドモ、オトナ漫画のワクを外して、会員全部にふりわけたほうがよかったんじゃないかな。

＝ホールで漫画学校などやったんだが、頼んだ人が来てくれなかったり、ことわられたり、メンバーをそろえるのにひとアセかいた。協力してくれる人と、そうでない者と、じつにハッキリ別れているんだな。

＝ゼニにならん仕事には手を出さん、というんじゃ困るんだな。いくど電話しても、ついに出品してくれなかつた人もいるけど、今になってみると、結局、本人が後悔してるのでないかと思う。

＝若い漫画家の中に、そういう非協力的な人も見えたね。展覧会などという、こういう団体行動に不馴れのせいもあるのかもしれない。勉強してほしいな。

＝PRのことだけれども、読売さんや西武さんによりかかりすぎた、という感じがしないでもない。協会自体が、もっと自主的にPRを推進すべきじゃなかったか。たとえば、理事長の名で、マスコミ関係へ案内状を送るとか……。

＝2月から大阪、その後各都市へ足をのばすようだね。

＝日本中の漫画ファンに見てもらうもうれしいが、できたら、ハワイ、ブラジル、メキシコあたりへ持ってまわりたいね。

＝テーマも、ピッタリだしね……。 (終)

《美著連シール発行について》

—日本漫画家協会会員各位へお知らせ—

美術著作権連合では、加盟6団体所属会員の作品に貼り付ける著作権確認シール（証紙）を全会員へ提供し、これによって単に作者の原画所有権を明示するばかりでなく、作品利用の範囲や期間の許諾そのほか著作権関係諸法規で保護されるあらゆる利益の尊重を作品利用者に向かって強調し、公正で明かるい法的関係の確立と、紛議の未然防止の効果を挙げることを期しています。

日本漫画家協会会員へは、とりあえずシール実物15枚づつを会報第15号に同封し、見本としてお届けします。シールの裏面には接着剤が加工してありますから、台紙からはがして、そのまま作品にはりつけることができます。シール面と作品面とに跨がって割り印のように認め印か落款を捺して作者氏名を明らかにし、その傍へ例えば1968などと制作時点を書き添えるのも一つの使い方でしょう。もし作品の裏面でなく表側へはりつけてもさしつかえない場合にはこの新しい運動のPR効果を高める意味で、なるべくそうしてもらうことを理事会では希望していますが、建て前としては裏側でもよいわけです。

追加注文は1枚1円の割りで何枚でもお分けしますが、代金はなるべく切手でお払いください。注文状の中へ返信用封筒に貴住所氏名を記入し15円切手をはったものを代金と共に同封してくだされば直ちに手配いたします。

なおこのシール見本は、すでに書協、雑協そのほか出版関係大手筋へ趣意書を添えて送付済みですが、もしそれが未だ行き渡らないため説明を求める向きがありましたら事務局へご連絡を頂ければ、くわしくお答えしますから、お含みおき下さい。

ひどい漫画・いい漫画

＝反社会性に関する反省と対策＝

社団法人青少年育成国民会議（茅誠司会長）は昨年11月21日総理府講堂で出版関係代表十数氏を講師に招き「青少年にとって好ましくない一部の出版物から青少年をまもるにはどうしたらよいか」というテーマで討議と懇談の集会を催した。右に招かれて漫画部門関連の諸質問に答えた本協会事務局長の発言要旨を次に摘録する——。

◆ひどい漫画が世間にあまり流布されないようにしてほしいというご発言の趣旨は、よくわかりますし、もちろん大賛成です。しかしその対策を立てるには、見当ちがいに陥らないように、あらかじめよく事情をのみこんでかかる必要があります。まず第一に、漫画家というものは、けっしてひどい漫画を書きたいために漫画家になったのではないということを、よくわかって頂く必要があります。ひどい漫画を頼まれて「そういうものは私には書けない」と断わった漫画家が、今も昔もずいぶんあります。断わっても生活に響かない人ばかりなら、お話しは簡単ですが、生活のおびやかされる場合も決して少くはないのです。ことにエリートと認められるより以前の段階にある人たちの中には、精根こめた力作を編集者の前にならべて、買手市場における売手のつらさを身にしみて感じる方がずいぶんあるのです。やむを得ず書きたくないものまで書いて、抱き合わせで採用してもらう場合もあります。たとえば、その編集者の必要とする、いわゆるひどい漫画を十枚書いてくれるなら、おつき合いに力作の方も十枚もらっておきましょう、というような条件を出される場合もあるのです。

◆右のような条件を呑んだ漫画家を責めてみたところで、それでわれわれの当面する問題が解決されるわけではありません。もしさまた仮りにその漫画家が、作品の反社会性に道義的責任を感じ、自分の生活権をギセイにして、執筆を断わったとしても、編集者の方では、おそらく「あなたばかりが漫画家ではない」と、ほかの人をさがして間に合わせるでしょう。漫画家団体全員の強力な申し合わせで断られまいかというご発言もありましたが、今の日本にはソ連や中国型の職能団体は存在しません。なるほどプロとセミプロの大部分は現在すでに本協会に入会しましたが、いわゆるアウトサイダーもまだ相当ありますし、今日のわが国の民主主義のあり方に強制力を期待し過ぎるのは間違いの元です。むしろこの問題の解決には、漫画家それ自身に重点を置くよりも、もっと出版物の流通機構を大局から見渡して、もっと別な根本的な急所に手を打ち、その結果自然と編集者の方からひどい漫画を注文しなくなるような筋道をつけるのが、ほんとうの対策のように思われます。

◆では具体的にどんな対策を考えられるかといえば、いろいろありますけれども、まず「本を買う人」の力を結集するのも一つの新しい有力な方法として考えられると思います。これまでわが国で実際に対策として打ち出されたのは、「本を作る人」すなわち出版倫協などと、「本を売る人」すなわち小売全連などを中心にして、自主規制組織を固めることでしたが、将来もしこの上にさらに新し

く「本を買う人」すなわち主婦連とか消費科学連盟とか、そのほか色々な地域消費団体などの実力を結集して参加してもらいうことができたら、グンと強力な効果が望めると思います。これは既に消費者団体の一角からも強い支持の声が上がっている案なのですが、ご研究ねがうために試案の一つをご紹介しますと、まずその着眼は、全国の本屋さんが二種に分かれている事実を利用しようとするものです。青少年にとって好ましくない本は、出版倫協が「要注意図書」扱いに指定したものと、都府県条例で指定したものとあります。これらブラック・リスト図書は、特に送本を要求しない本屋さんへは取次業者から送本しない仕組みになっているそうですから、ひどい本をどうしても売りたい本屋さんは特に送本申しこみをしなければならないわけです。従って、特に申しこみをしない本屋さんと、する本屋さんと、二種類に全国の本屋が分けられます。そこで消費者団体では、前者すなわちひどい本を扱わない本屋さんの店頭や入り口に「この書店はなになに消費者団体の協力店です」という目印しのポスターなり看板なりを掲げるよう手配し、同時に団体所属メンバーの買い物は、本でも文房具でもいっさい協力店で買う申し合わせを会報や集会で宣伝する。こういうキャンペーンが始まれば大きな威力になります。

◆協力店となった本屋さんにしてみれば、何千何万種とある本の中で、わずか数十種に過ぎない特殊指定図書の仕入れを避けただけのこと、べつに大した苦労もしないのに、そのおかげでほかの本や雑貨まで売り上げがふえて、結局そろばんに合う。反対にブラック・リスト図書をわざわざ注文して仕入れた本屋さんでは、その本は多少売れたとしても、それ以外の一般図書や文房具の売れ行きが「協力店」にさらわれてしまうのでは、ヤブヘビになる——。このような打算から、青少年に好ましくない本を置く店が自然に減少し、それを出版する編集者も、その背後にいる編集実力者もいわゆるひどい本の出版企画にあまり魅力を感じなくなる。そんな事情からどぎついエロ漫画などを強要する編集者が減れば、それだけ漫画家のほうはホッとする。

◆以上のような三段論法が、果たしてどこまで商魂をリードできるかは、「本を買う人」すなわち消費者団体の協力の程度如何にもよるでしょうが、とにかく青少年健全育成運動の一環に出版物の終着点たる消費者団体のボイコット実力を利用することは、しない場合よりは何かしらプラスとなるのではあるまいかと予想する人々が、日本の有力な消費者団体の中にも既におられるということを一つの情報としてこの機会にご報告申し上げておきたい。少くともこういう社会機構にマッチした合理的なくふうを立てることは、単純に漫画家を責めるよりは明かるい前向きの一つではないかと考えている人があることをご報告いたします。なお本日の会議では、いい漫画に対するおほめのお言葉も出て、それが、世間のあらゆる階層の人たちに、時としてはフラストレーションを慰め、時としてはレクリエーションとして役立っていることを確認されたのは、たいへん愉快なことでして、合わせて日本漫画家協会会報誌上に報告させて頂こうと思っています。（拍手）

中国の漫画

伊藤逸平(東京)

中華人民共和国が誕生したのは1949年だから今年で19年になるが中国の革命に、そして新生中国がスタートしてからの国づくりに漫画が非常に大きな役割を果したことは誰でも知っているが、今日その当時のかがやかし業跡をのこした漫画家たちが今度の文化大革命の嵐に幾ら残されたかわからないが、中国の代表的漫画家で北京市人民委員兼北京美術館長の要職にあった華君武がハイティーンの紅衛兵たちに長い三角帽子をかぶせられて北京街頭を引き廻されたというニュースを昨年聞いて私は仰天した。

華君武は上海出身のインテリで延安派のチャキチャキの革命漫画家として著名な存在で米谷、方成などと共に中国の代表的漫画家として我が国にも知られていた。

華君武は当時「人民日報」をはじめ、あらゆる刊行物に実際にエネルギーをもつて活動をみせていましたし、上海のアニメーション撮影所（万兄弟を中心となって制作していた）でも華君武指揮によるアグファカラーのアニメーション『黄金夢』——アメリカの独占資本を風刺した作品で中国のアニメーションとしては非常にユーモラスでフランス的な味のある作品——なども手がけたりして多彩な存在であった。一昨年日中文化交流協会を通じて中国を訪問したとき、私の宿舎であった北京飯店に華君武がたずねてこられ約3時間ほど食事をしながらいろいろ語り合った。華君武はフランスにも留学したことがあったらしいがヨーロッパの漫画について非常に詳しく、つい時の経つても忘れて漫画談義に花を咲かせた。

そのときこれからの中の中国の美術界や漫画に関して実際に熱心にその根底となる思想性や表現について意見を述べたら、将来の計画やビジョンを語ったり、そして、特に毛沢東の文芸講話をさらに深く学んでゆくつもりだともいっていたのに、いわゆる実権派として簡単に葬り去られてしまったのである。

おそらく私たちの知っている中国の漫画家はほとんど追放されたにちがいない。

文化革命も、そう簡単に片付くものではなかろうし、江青夫人の失脚説も流布されたりして今後の見通しは、にわかに判断がつき難いが、いずれ上海から『漫画』誌が刊行されていた当時の如く百花齊放のときもくるであろうが、今のところ、中国には漫画は不在らしい。



目録、目録改訂版と、暮から正月にかけて会報部テンテコ舞いをしてしまった。この号をお届けして正常にもどり、まずホッとしたところです。

地方会員の皆さんに東京展の詳報をお伝えしたかったのですが、スペースの関係でこの程度、おゆるしください。早いもので、もう4月総会が目の前です。「ひろば」欄、地方支部など、しばらくご無沙汰してしまったが、

消息

(事務局あてのご通知から抜録)

池原昭治君 丹沢山のマンガ展第2回、神奈川県丹沢山塊表尾根塔ヶ岳尊仏山荘と花立山荘で42年10月1日から3カ月間。

入江しげる君 漫画コレクションと和紙による紙画個展。銀座2丁目東洋美術館画廊で10月24~28日。

伊藤直樹・伊藤勇輔・緒方健二・栗山正司・Cトクタロー・清水健造・伴武司・樋口太郎・福田トシオ・三原五呂王・矢尾板賢吉ほか4君「次の世代展」埼玉県大宮市立漫画会館で10月31日~12月10日（備考=同会館は毎週月曜休館）

出野元三・下川四天・高橋まさや・もろただしの4君「野田漫画クラブ展第4回」千葉県野田市興風会館で11月3~5日。

江梨好二君 歌謡漫画展 新橋美松書房画廊で11月20~25日。

クロイワ・カズ君 MAN画個展第2回 銀座西5~5ギャラリー・ボランで12月11~16日。

佐宗美邦・宍戸左行・清水対岳坊・白路徹・田中比良・堤塞三の6君「漫六展」渋谷東急文化画廊で1968年1月1~7日。

協会員3百数十名出品 漫画100年（日本漫画家協会第1回展）別刷目録（会報号外）参照=東京池袋西武百貨店で1968年1月2~16日。

協会員約50名出品 明治100年漫画風物詩「まんが寺ふすま絵展」神奈川県川崎市さいか屋百貨店で1月6~16日。

東君平個人展 銀座松屋美術サロンで1月12~16日。

久里洋二君 フランスの短篇映画祭へ動画を出品し、「特別審査員賞」を受賞した。

—事務局ライブラリー・メモ—

(協会メンバーにより編集され協会あて寄贈されたもの)

- 猪 1号と2号（飯塚よし照編集発行）
- 漫画百年 3号（佐宗美邦編集発行）
- まんが Q man 2号（一刀研二発行）
- COM（まんがエリートのためのまんが専門誌）毎号（手塚治虫・永島慎二・石森章太郎・月刊）
- 超高層まんが（小比賀新二著）
- 切紙美術教室と影絵の作り方（七条けんじ発行）

次号では、タップリこれらの原稿を頂戴したいとおもっております。（井崎一夫）

1968.2.15 No.15 100年展(東京)報告号

発行所・日本漫画家協会事務局
東京都中央区銀座西2ノ5(銀座ビル2階)電話(561)3834番
・振替口座(東京)1141番

編集・発行人 近藤日出造
印刷所 長田印刷株式会社